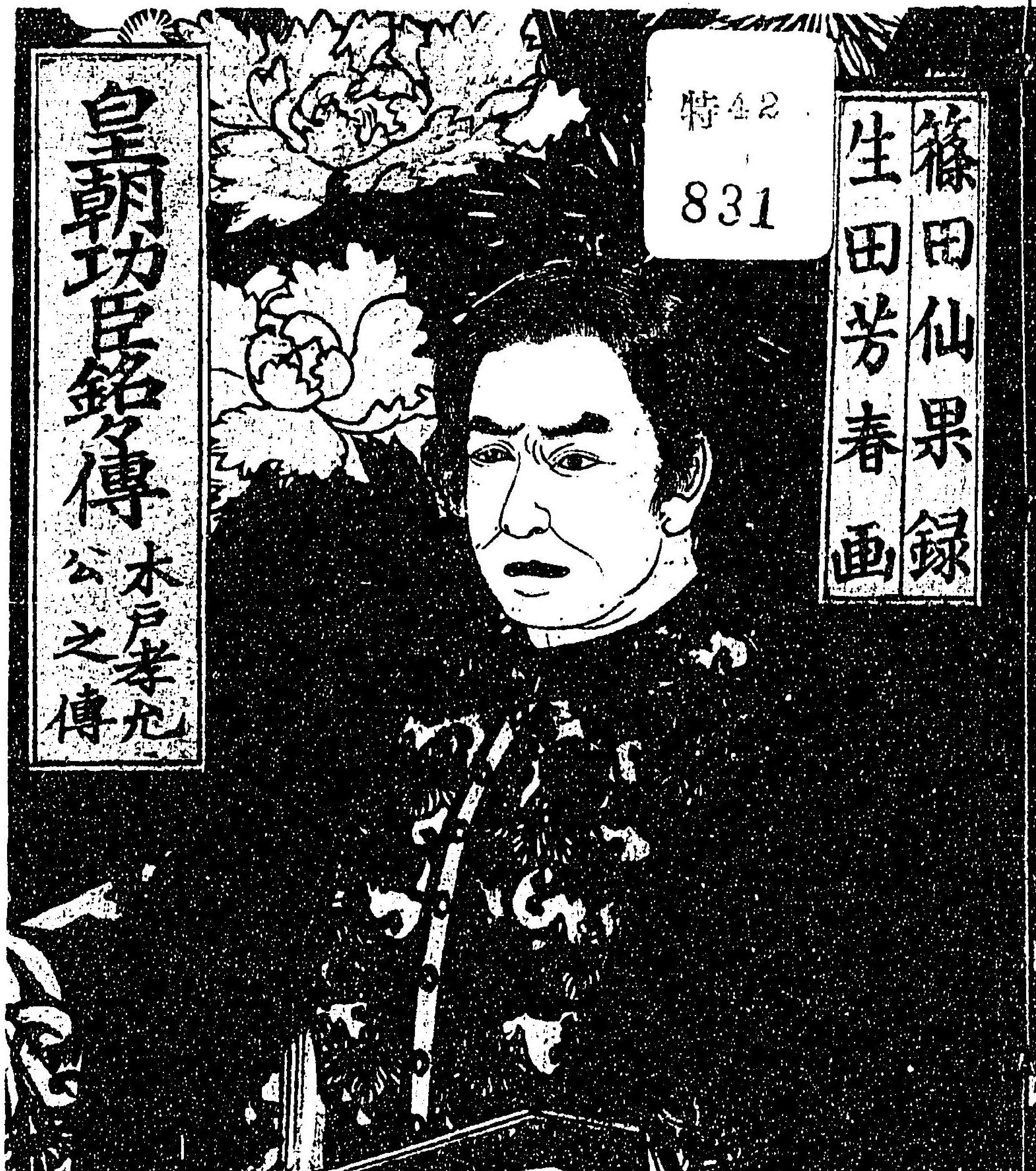
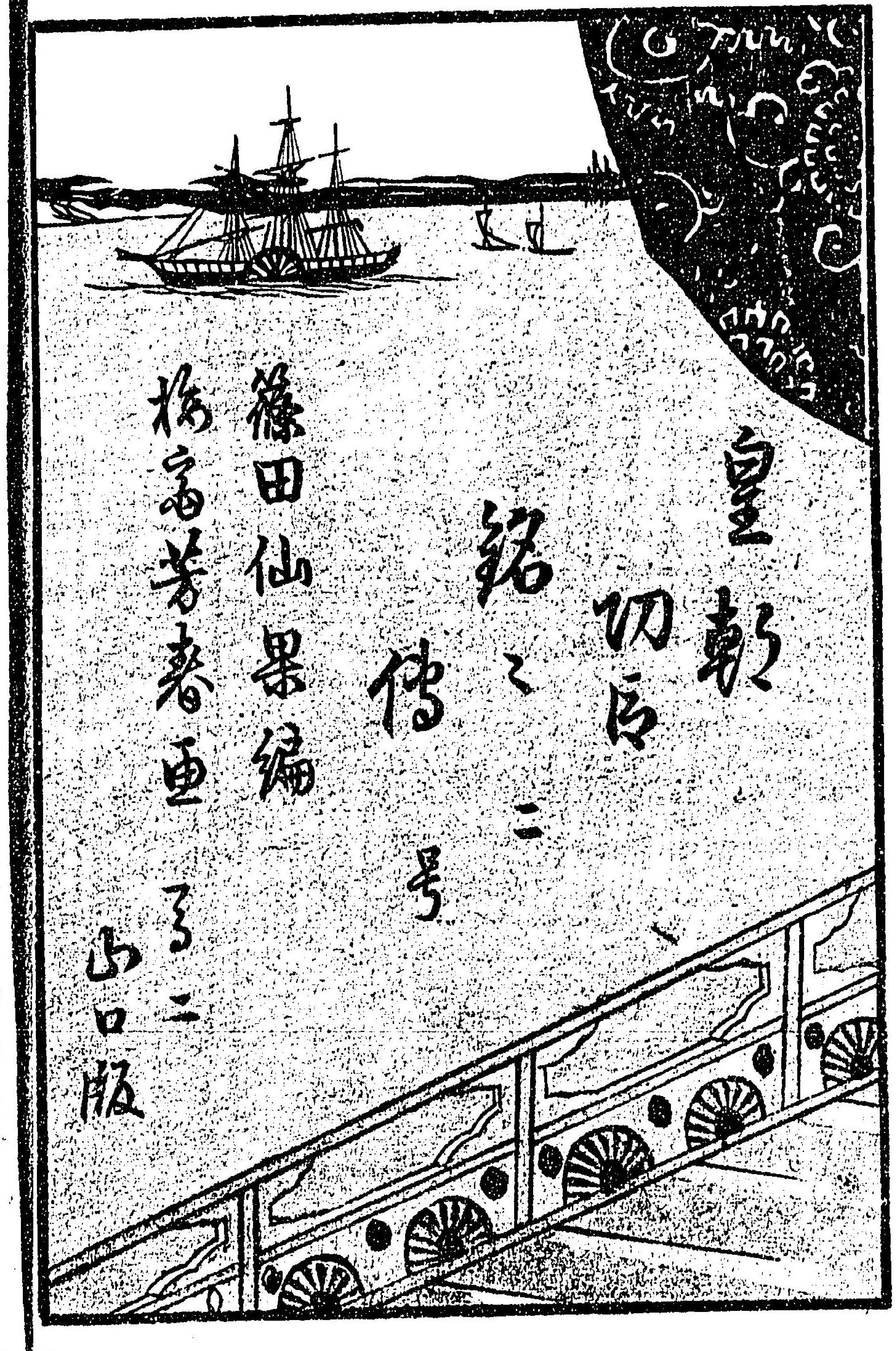


皇朝功臣銘々傳

木戸孝允公之傳

篠田仙果録
生田芳春画

特42
831



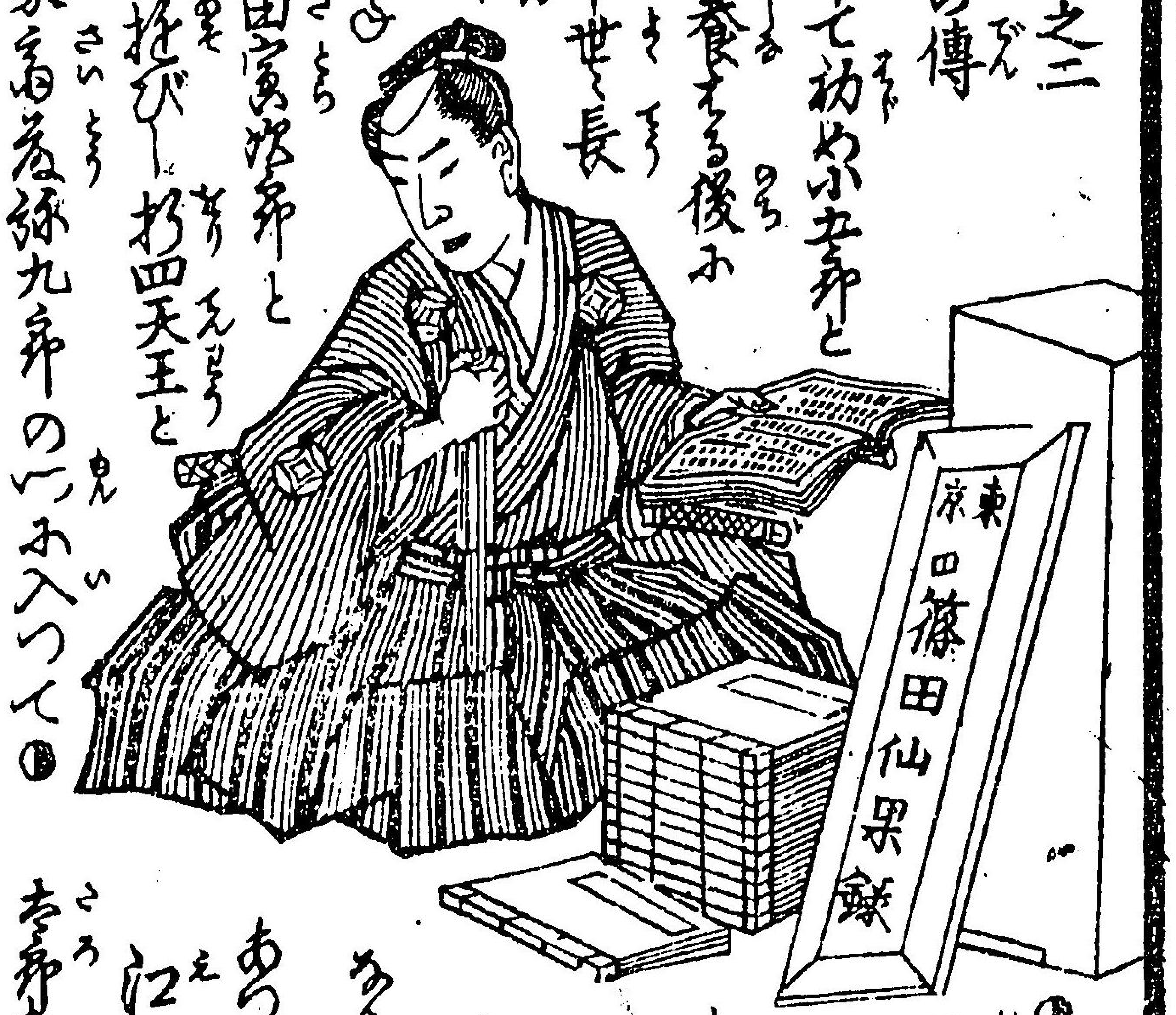
皇朝功臣銘々傳 二号

篠田仙果編
梅富芳春画
ゟ三 山口版

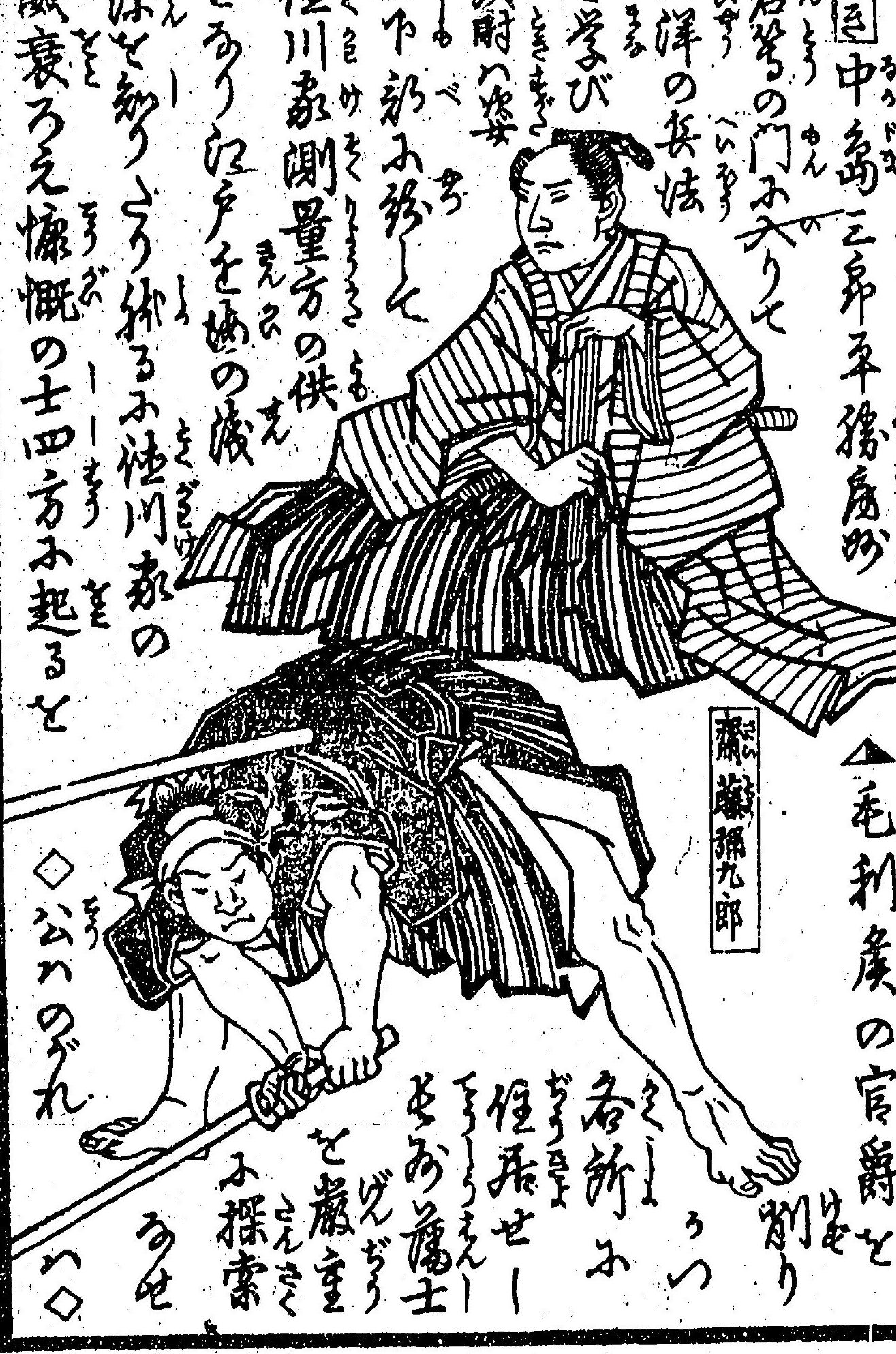
皇朝功臣銘々傳巻之二

木戸孝允公の傳

公の本姓ハ和田氏にして初めハ小五郎と号す幼稚くして桂氏に養ハるゝ後に木戸準一郎と改名し世々長州侯の藩なり公幼年より文武の道に志をよせ同藩にて有名なる吉田寅次郎と尤も東り涼く江戸に趣びし於四天王と称せられし撃劔家斎藤弥九郎の門に入つて◐



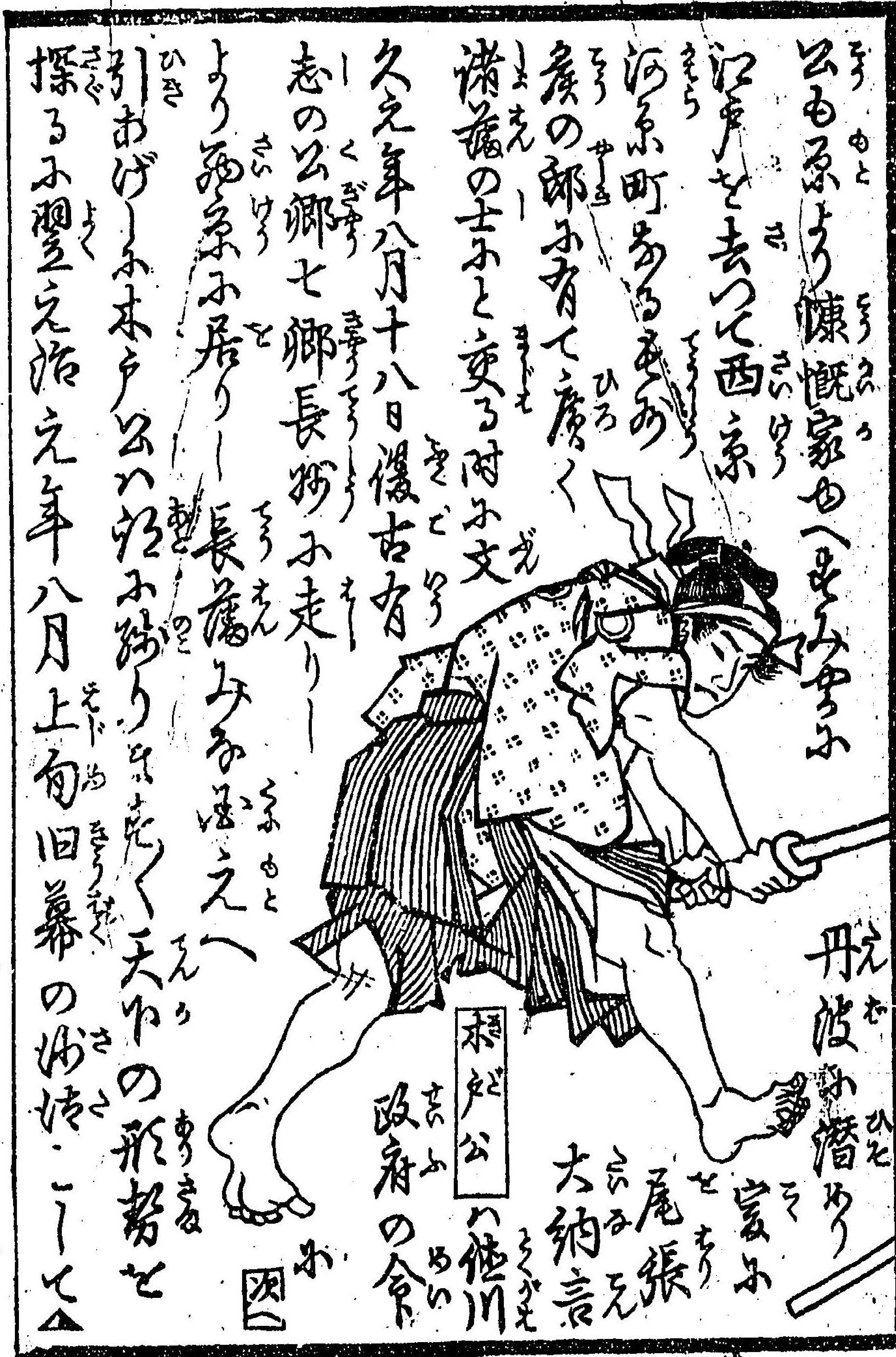
◐道場の長となりまもなく発明なることあつて江川太郎左の図



つゞき中島三郎平猶居に君鶴の門に入りて西洋の兵法を学び或時ハ姿を下部に扮して徳川家測量方の供として江戸を遁の後源を知りたり術るに徳川家の衰ろえ慷慨の士四方に起るを

◬毛利家の官爵を削りつ各所に住居せし長州藩士を厳重に探索させ

◇公ハのがれへ◇

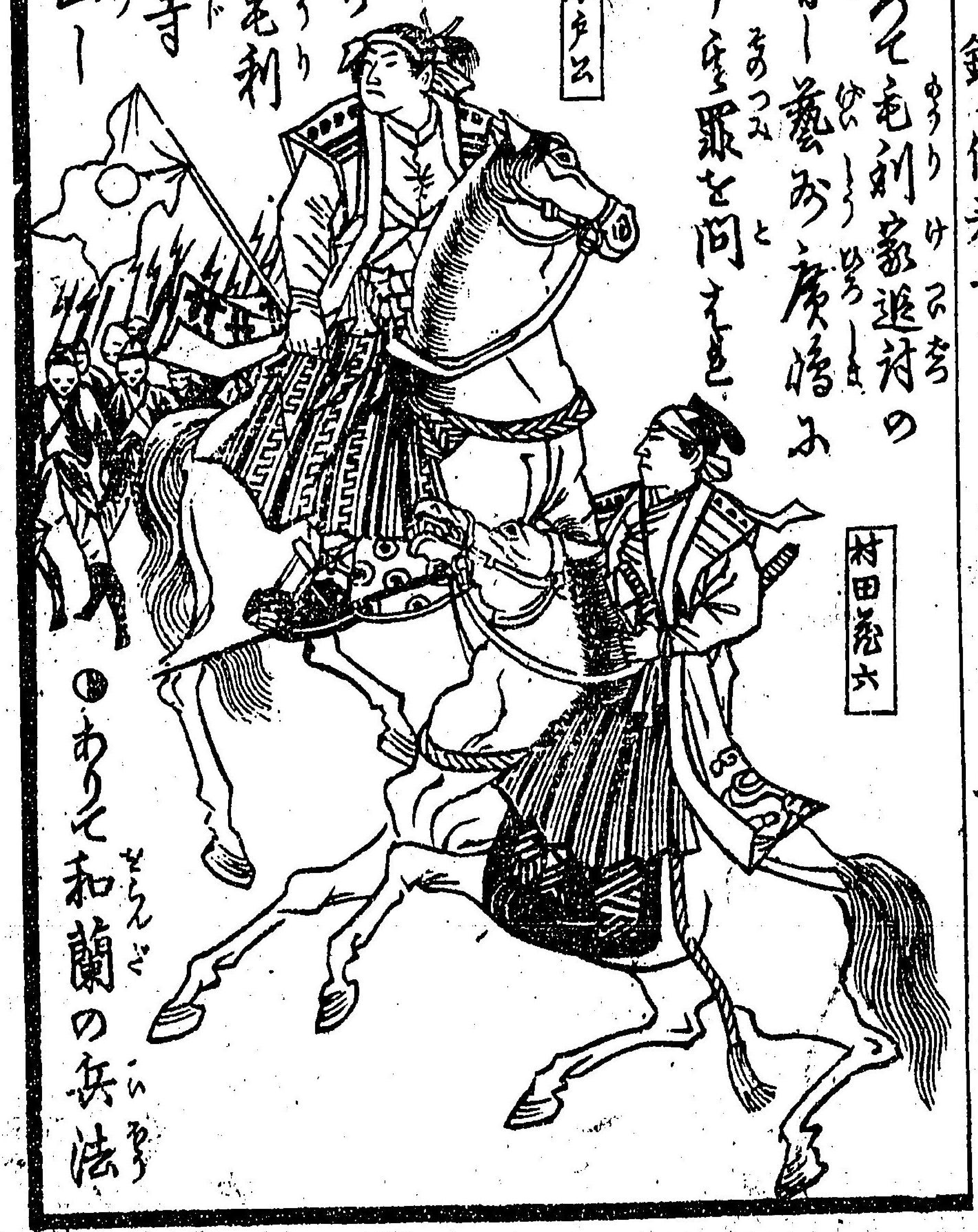


公も元より慷慨家なれハ是にならふ江戸を去つて西京河原町なる長州侯の邸に在て廣く諸藩の士と交る時に文久元年八月十八日復古有志の公卿七卿長州に走りしより藩京に居りし長藩みな従えへ引あげしに木戸公ハ猶京に潜りて天下の形勢を探るに翌元治元年八月上旬旧幕の嫌疑にして◬

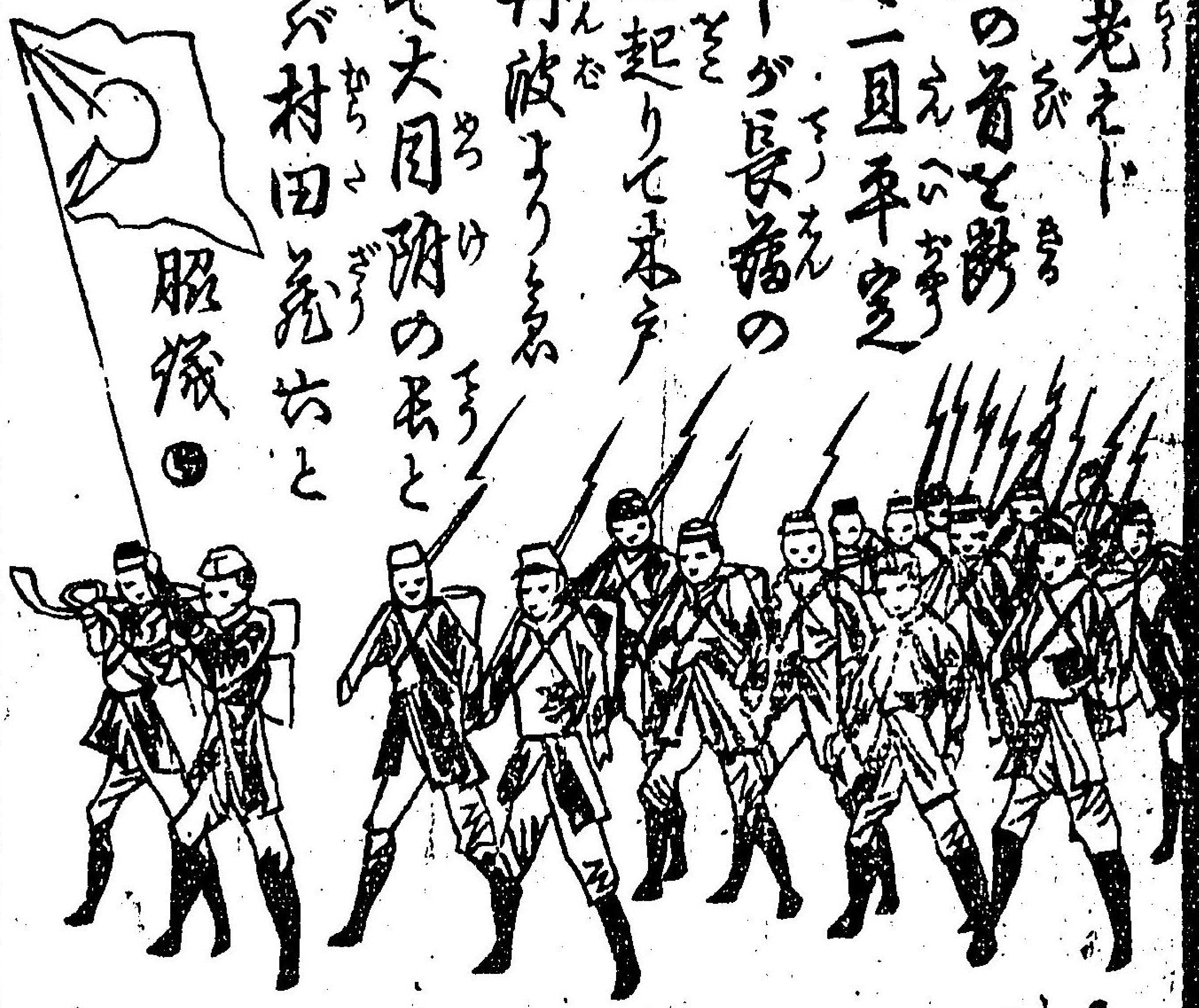
丹波に潜めり宮に尾張大納言へ政府の命ハ徳川に

図

つぎ よつて毛利家追討の兵を發し藝州廣嶋に出張し罪状を問ふとき しくむ 毛利家の長臣ら驚き毛利父子を寺院に幽し



三國老えし十一人の首を斬よつて一国平定なせしが長藩の正党起りて木戸公を丹波より迎ふ かねて大同附の長とせしが村田蔵六と

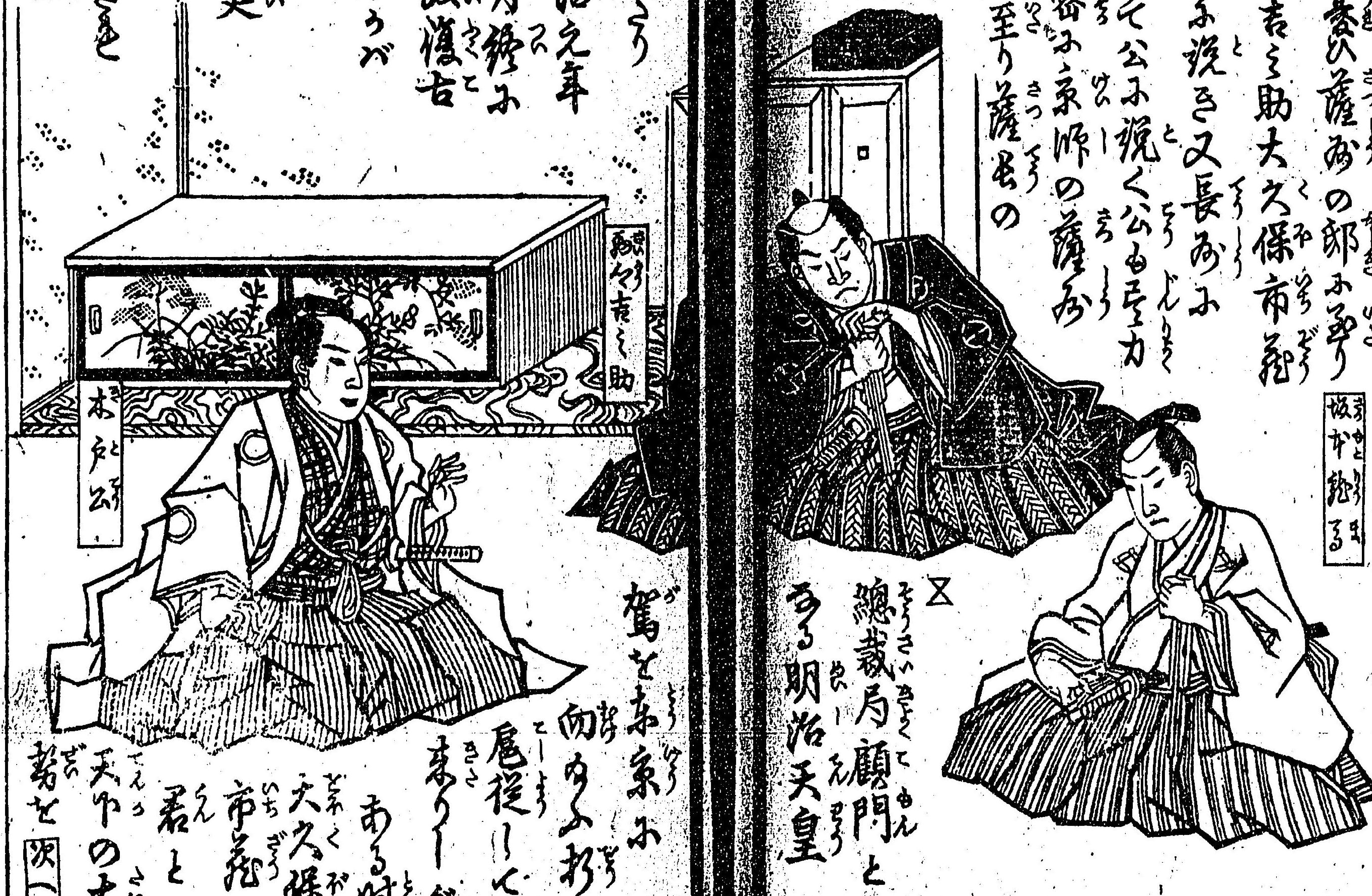


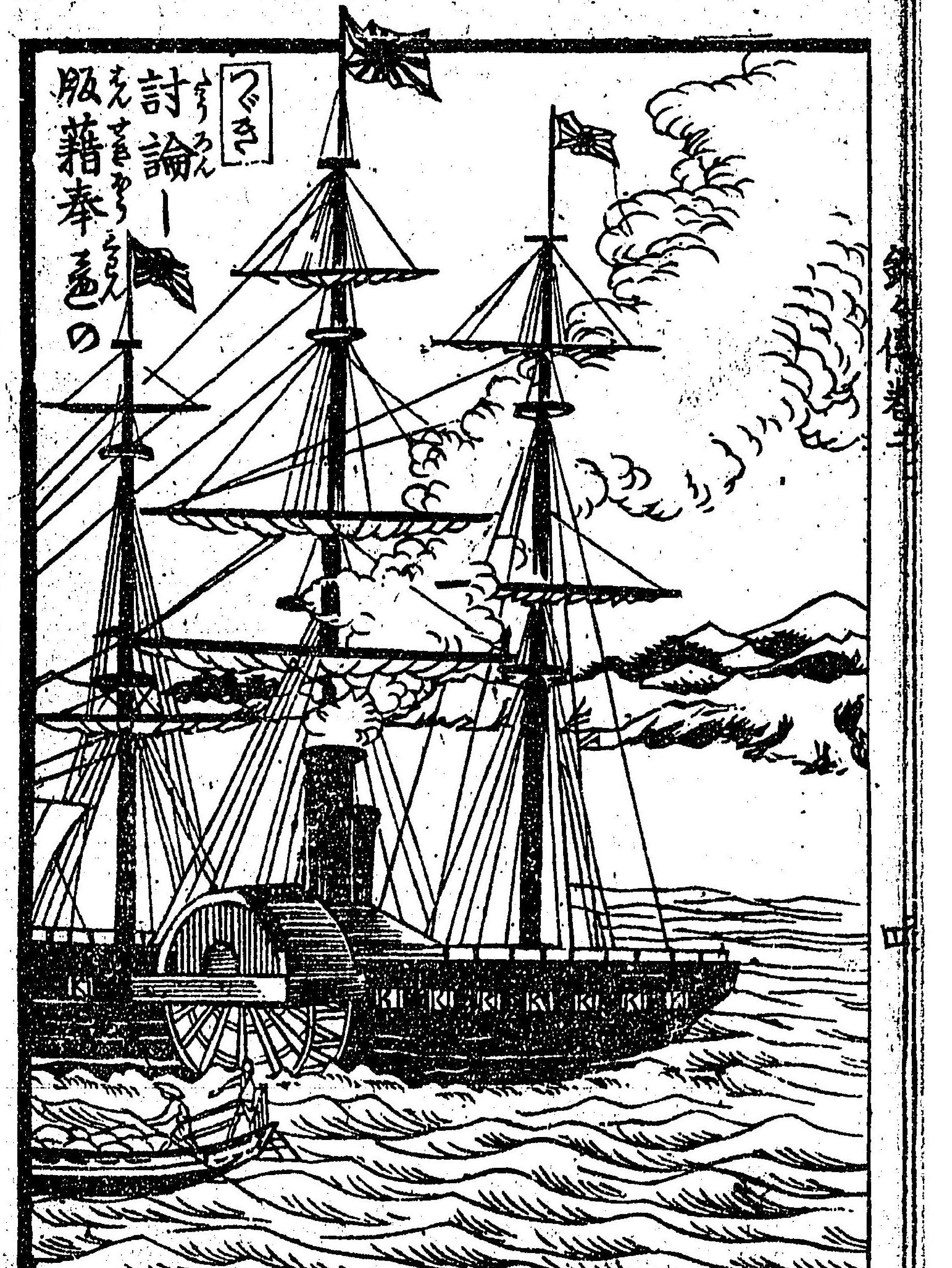
①ありて和蘭の兵法

に準で壮士に銃術を調練せりまた山田市之允らとともに藩政を改革せり この時にあたり土州の藩にて有名の士坂本龍馬といへるものありて 次へ

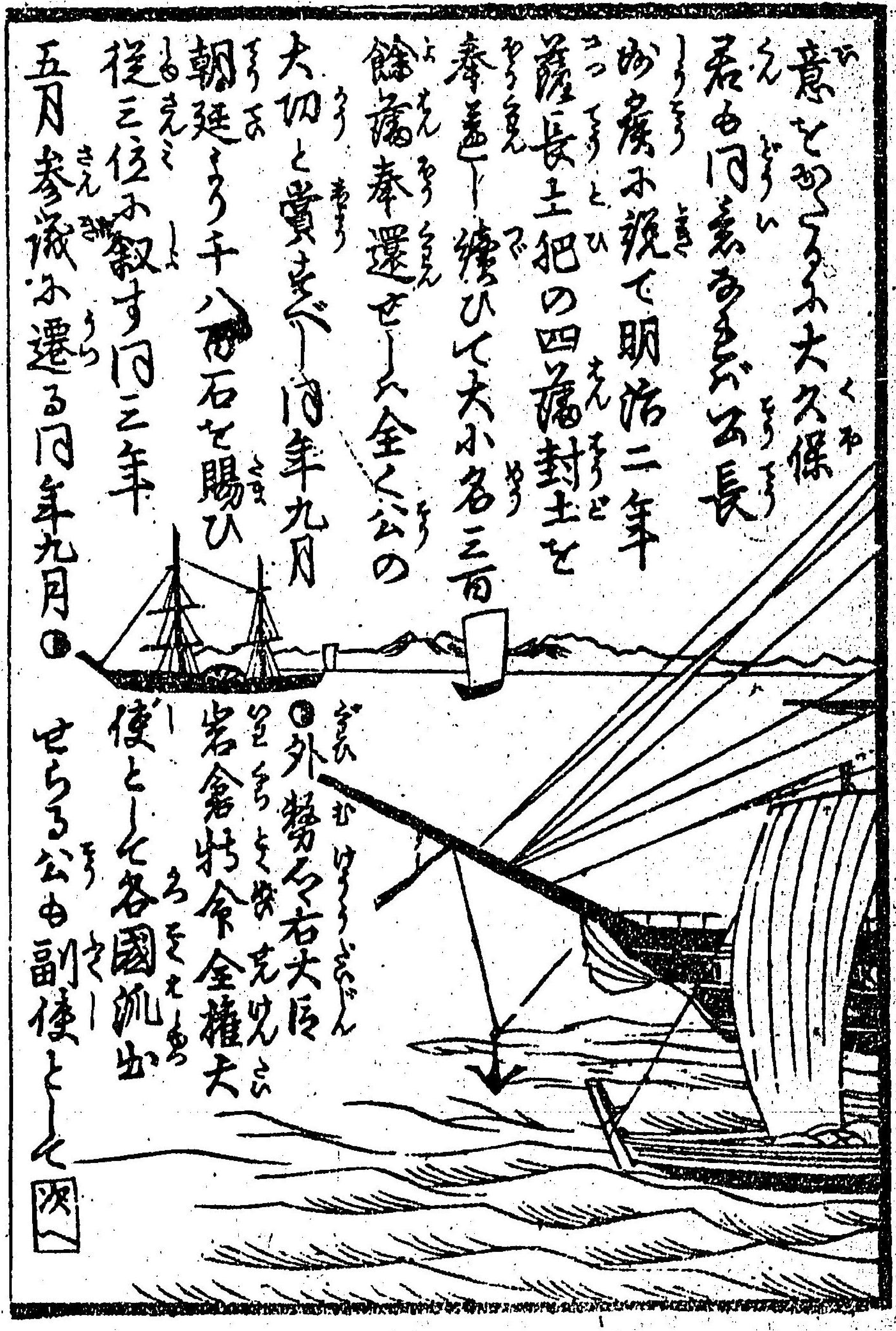
つゞき 薩州長州の両藩睦しからざるを深く憂ひ薩州の邸に至り西郷吉之助大久保市蔵君らに説き又長州に参りて公に説く公も尽力して密に京師の薩州邸に至り薩長の親睦を調のひたり明治元年正月維新に王政復古せしが公へ朝廷に徴されて⌛

⌛総裁局顧問となる明治天皇駕を東京に向かふ折扈従して参りしがある時大久保市蔵君と天下の大勢を 次へ


坂本龍馬
西郷吉之助
木戸公



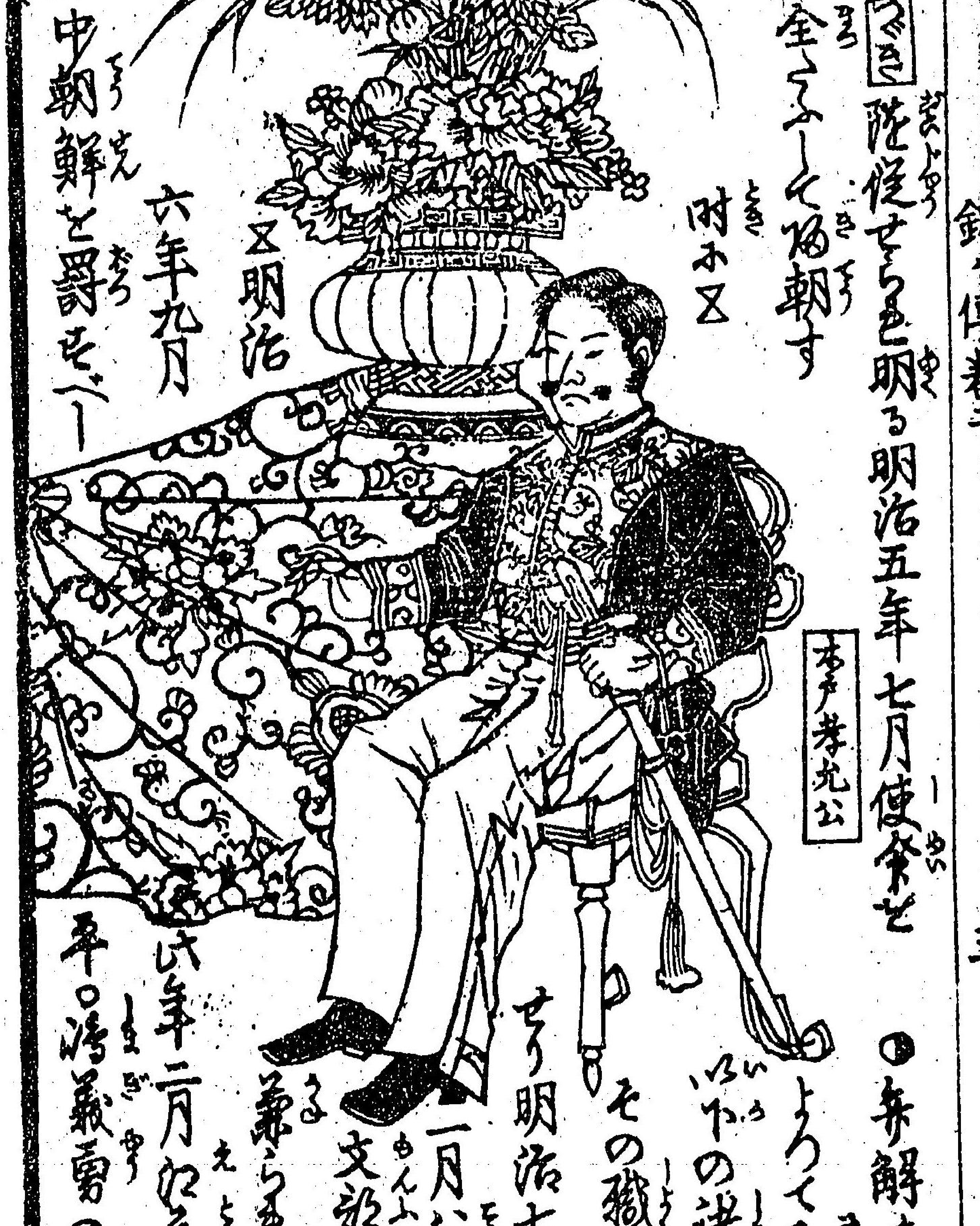
つゞき討論し版籍奉還の



意をおこされしに大久保君も同意あるものゝ如く長州廢に就て明治二年薩長土肥の四藩封土を奉還し續ひて大小名三百餘藩奉還せしハ全く公の大功と賞すべし同年九月朝廷より千八百石を賜ひ從三位に叙す同三年五月参議に遷る同年九月●

●外務卿右大臣岩倉特命全權大使として各國派出せらる公も副使として

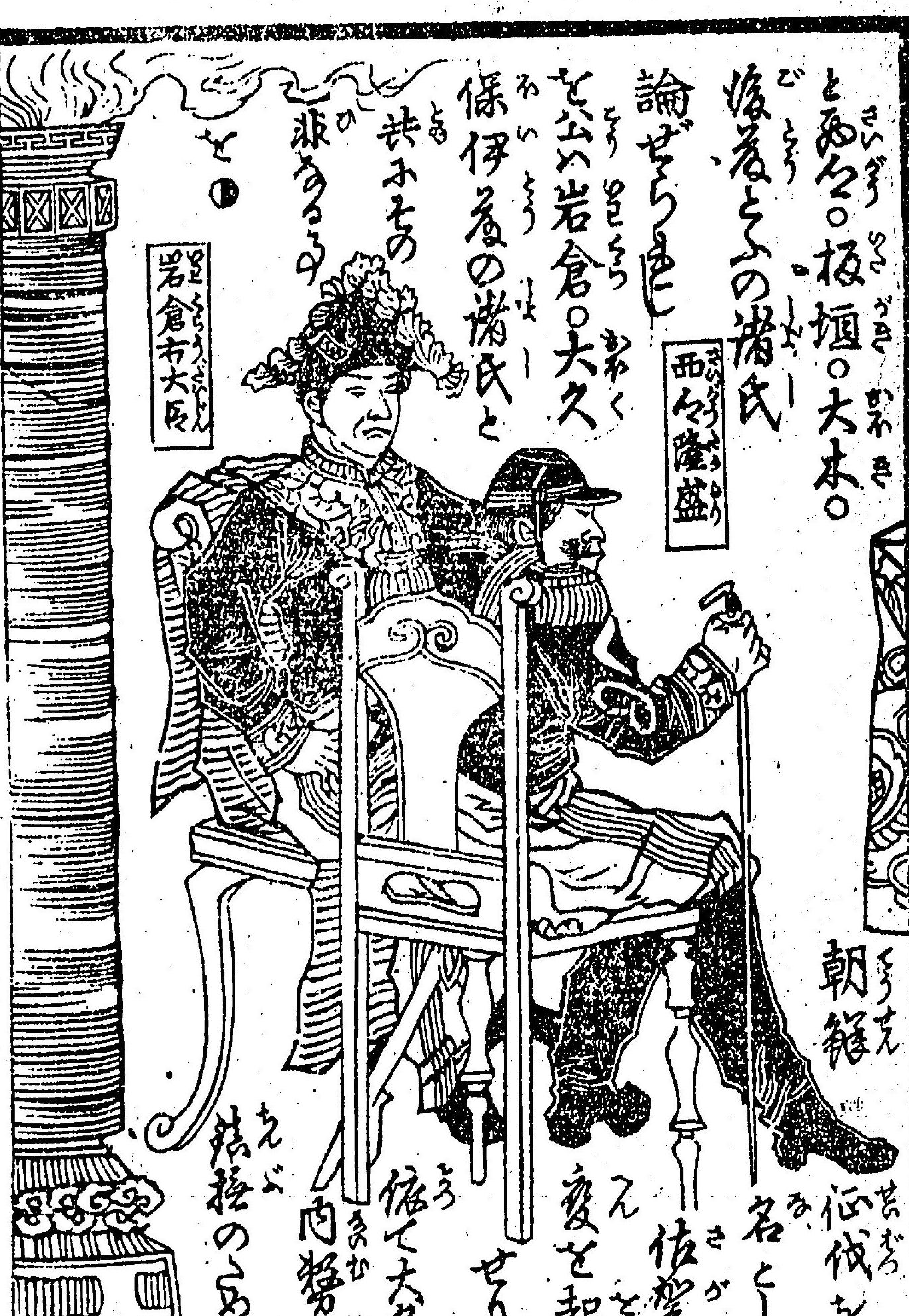
次へ



つゞき陪従せられ明る明治五年七月使命を全ふして帰朝す時に又

又明治六年九月中朝鮮を罰すべしと西郷○板垣○大木○後藤といふの諸氏論ぜられしを公は岩倉○大久保○伊藤の諸氏と共にその非なる[illegible]を●

●弁解せりよつて西郷以下の諸氏その職を辞せり明治七年一月公へ文部卿を兼らせらる此年二月江藤新平○島義勇の党ら朝鮮征伐を名として佐賀に変を起せり依て大久保内務卿鎮撫のため次へ



つぎ佐賀表え下向ありしが公ハ内務卿をも兼られしが◪罹るに病にそのまゝにて在都せしが病床にて建白書を●

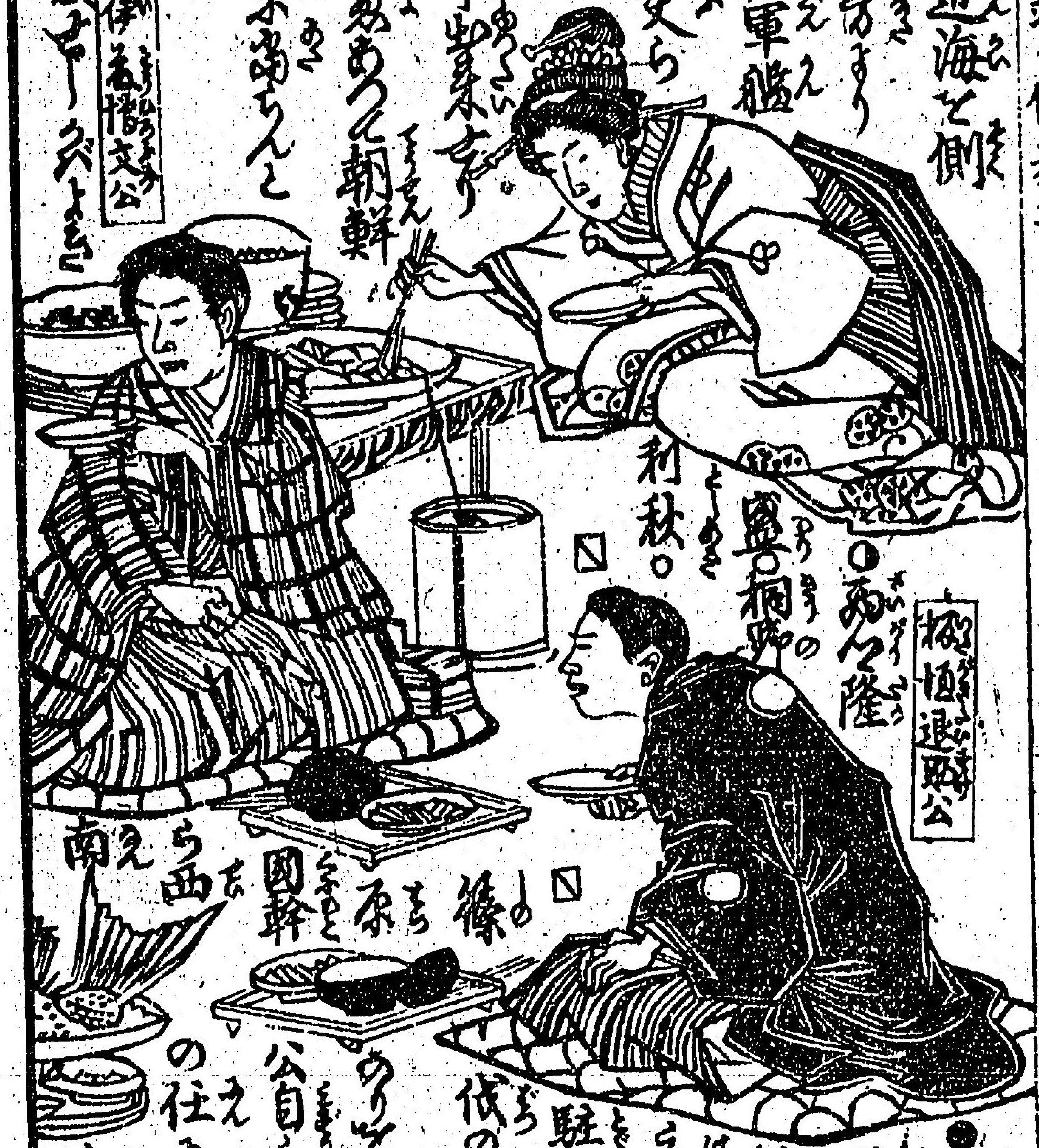
●さし出されたれども病全愈せざるゆゑその職を

辞されしかども朝廷にてハ召て宮内省出仕に補せ公ハ療養のため山口へ帰県せらる明治八年の春復古の功臣を集會せんと公大ひに周旋せられて大久保○伊藤○板垣○の諸氏を大坂へ招迎し天下の方向を協議有がその論まち〳〵にして合はず公ハ東京に出府せしが再び参議●

●に任ぜられ同年△

△六月地方官會議の議長と定められしが此年十月我軍艦〔次へ〕

つゞき朝鮮近海を測量せしに彼方より炮発せしゆへ軍艦より兵士水夫ら上陸して炮戦し一大事出来すり公深く苦慮ありて朝鮮事件の任に当らんと請ふに再も[illegible]ひ然せしべしとき

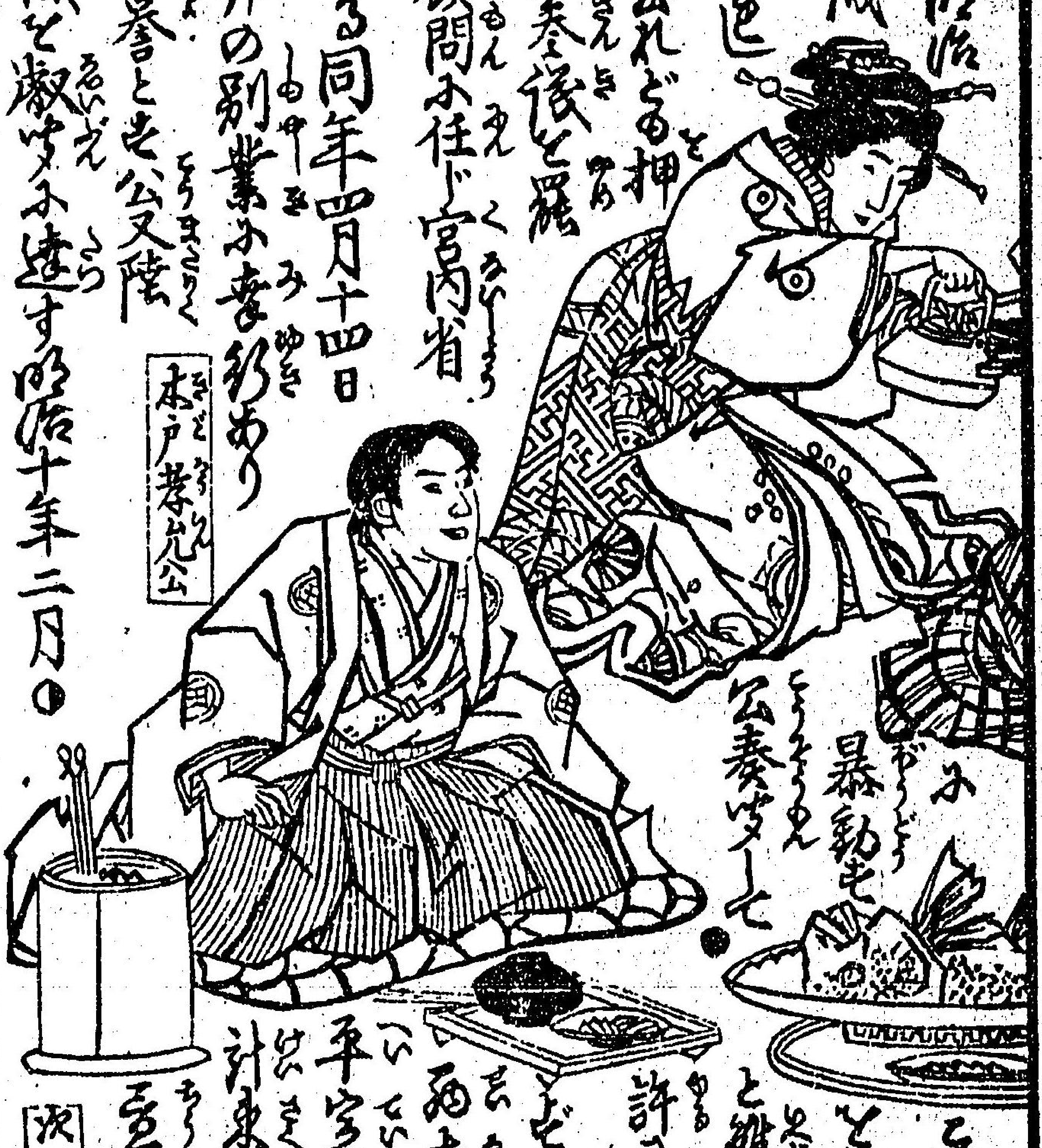

伊藤博文公
板垣退助公

◐西郷隆盛桐野利秋。◨

◨の篠原国幹西南

●鳳輦在京に駐め給伐の詔ありて遂に公自らその任に当らん

差止られ明治九年三月参議の辞表を出されしに免されざれども押して辞し参議を罷られて内閣顧問に任じ宮内省出仕を兼らる同年四月十四日主上公が染井の別業に臨幸あり世の人皆て栄誉とせ、公又陸羽へ行幸の儀を厳かに遂す明治十年二月◐



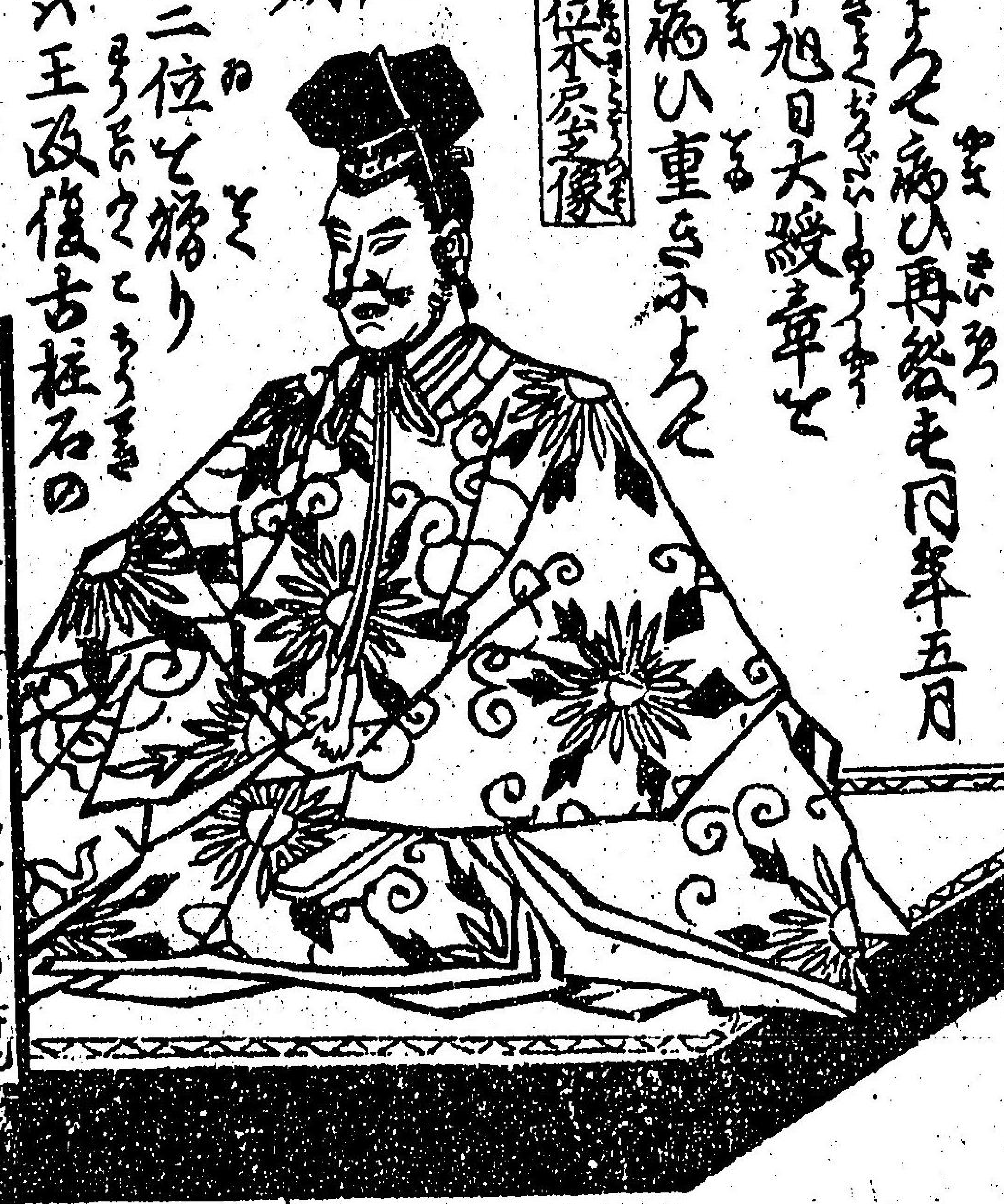
に暴動を公奏せられて●

そとゞふと雖も許されず公西南平定の計策に晝夜

次へ

〔つゞき〕肺肝を碎く臣にして病ひ再發も同年五月廿五日勲一等に叙し旭日大綬章をも主上親ら授けのまふ公病ひ重きによりて工級々伊為氏代りて立ちもて公翌廿六日薨ず時に歳四十四年にまふよりて正二位を贈り金幣を賜ふ實に公は王政復古柱石の功臣と賞するもむべなる哉

皇朝功臣銘々傳卷之二畢


勲一等正三位木戸公之像

明治十五年九月十三日御届ケ

編者 神田區神田仲町二丁目五番地 篠田久次郎
出版人 日本橋區馬喰町二丁目九番地 荒川藤兵エ

價三戔五厘